

はじめに

近年、保育所にかかわっての保育ニーズは量的にも質的にも多様化してきている。そのなかでも、もっとも緊急に検討を加え、条件を整えていかねばならないものの一つに「一時保育」がある。

認可保育所において一時保育を実施するとき、それは子どもにどのような影響を与えるのか、子どもの育ちにとってプラス面は何か、あるいはマイナスになるような面はあるのか、ないのか、このあたりをしっかりとっておさえる必要がある。

本研究においては、まず、実態調査の結果をふまえ、課題を明らかにし、一時保育にとってのぞましい保育処遇のあり方を考え、それをもとに若干の提案を行なっている。

社会的ニーズとして一時保育が期待され、新エンゼルプランのなかにも位置づけられているとき、充実した一時保育を展開していかねばならない。

この度、平成 11 年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）をうけ、当該研究テーマに取り組むことが出来たのは幸せであった。十分な課題解明とまではいかなくとも、関係各位において一時保育のあり方が検討される時、本書がいささかなりとも資すればこの上ない喜びである。

平成 12 年 3 月

研究代表者 民 秋 言

(白梅学園短期大学)